

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4491200012		
法人名	有限会社 スマイルリース		
事業所名	グループホーム 陽だまりの丘		
所在地	大分県豊後大野市千歳町新殿1233-1		
自己評価作成日	平成23年2月14日	評価結果市町村受理日	平成23年6月3日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成23年3月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームは広々とした高台の平地に位置し、周りには田畑があり農家の方がタバコや季節の野菜を作っているためホームに居ながらにして季節感を味わうことが出来る。気候の良い日などは利用者様と、手引き歩行や車椅子での散歩を楽しんでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・広々と開放感のある風景や畑がホーム内からも望め、ホーム内に居ながらも季節の変化を感じることができる。
 ・『人尊優顔』の理念の元、職員は明るく利用者と和やかな関係を築いている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印		項目		取り組みの成果 該当する項目に印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の		63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらい	
		4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある		64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように	
		2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度	
		3. たまにある				3. たまに	
		4. ほとんどない				4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が		65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 少しずつ増えている	
		3. 利用者の1/3くらい				3. あまり増えていない	
		4. ほとんどいない				4. 全くない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が		66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 職員の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 職員の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が		67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 利用者の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 利用者の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が		68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 家族等の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 家族等の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が					
		2. 利用者の2/3くらい					
		3. 利用者の1/3くらい					
		4. ほとんどいない					

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	申し送りの時、毎朝新たな気持ちを持ち職員全員で理念を唱和し共有に努めている。新人には理念の意味を伝え全員で日々実践できるように取り組んでいる。	『人尊優顔』を理念とし、申し送りなどで唱和しながら、日常のケアに取り入れている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園や児童館の子供達が夏祭りや餅つき等の行事に参加し、お互いの交流を育んでいる。また学校や地区の行事、イベントにも参加し地域での交流を楽しまれている。	地域の小・中学校の運動会へ招待されたり、紙芝居・歌・手品・神楽などの、ボランティアの訪問がある。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市内の専門学校の実習の受け入れをしている。認知症について中広く理解できるように支援を行い相談にも応じている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの内容や取り組み状況等を報告し委員の方々より指導や意見を戴き運営に活かしている。	会議記録はわかりやすく丁寧にまとめられており、メンバーからの意見などを取り入れている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	実施指導や集団指導講習会で市町村担当者と連携をとり質の高いケアを目指し協力関係を築いている。	運営推進会議への出席案内や、市が開催する研修への参加をしている。	ホーム側から現状の報告など積極的に働きかけ協力関係を築いていくことが望まれる。
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職場内研修で身体拘束についての勉強会を開き職員の意識の向上に向けて取り組んでいる。	年1回程度定期的に研修を行いながら、全職員で意識の向上に取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職場内研修で虐待防止について知識を得て日常的にどうなのかをミーティング等で説明し防止に努めている。		

事業者名: グループホーム陽だまりの丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見制度に該当する利用者はいないが研修等で各制度を学ぶ機会を持ち共有できるように取り組んでいる。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容や利用料について説明し家族の要望や不安等には十分な理解や納得が得られるように努めている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時に要望や希望に添ったケアができるように意見を伺っている。また意見や要望を通して運営に反映できるように支援している。	家族からは面会や電話時に、利用者からは日常のケアの中から、意見や要望を聞いている。	利用者・家族とも職員へ直接伝えにくい意見や要望を拾い上げる為にも、アンケートや意見箱、第三者機関などホーム側の工夫が求められる。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼や職場会議、ミーティング等で職員の意見、提案を聞き意見が反映できるように取り組んでいる。	ミーティングや職員会議では職員は発言しやすい雰囲気、洗濯物干し場の改善など日常のケアを含め、意見や要望などを伝えている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員のケアに対する意気込みや実績、前向きな姿勢等個々の状況把握を重視しつつモチベーションを高める。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月一回事業別会議を開催している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大分県グループホーム宅老所連絡会に加盟し職員が交代で研修に参加している。学びを通してサービスの質の向上に取り組んでいる。		

事業者名: グループホーム陽だまりの丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安や困難な事を伺い毎日のコミュニケーションを通して安心感が得られるように信頼関係作りに努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族に本人の状態や介護困難な話、ホームへの要望等を伺い、どのようなサービスで支援できるかを伝えている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の要望を受け止めて必要な支援の見極めをしている。他の支援サービスも考慮し対応に努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	饅頭作り等で、やり方や手順を指導して頂き、共に出来上がる工程を試行錯誤しながら楽しみ合える関係を築いている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には面会時や新聞等で状態を報告し本人の要望や希望が添うケアを共に支えていく関係作りに努めている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	遠方から知り合いが訪ねて来たり、墓参りに行ったり、お孫さんから電話がかかったりと関係が途切れないよう支援している。	年賀状のやり取りの継続・馴染みの理美容室の利用・墓参り、また饅頭作りが好きな方がいつでも作れるように材料や道具を常に準備するなどしている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の位置等を配慮し利用者同士の関わり合いを大切にしている。その関係を職員で共有し一人一人が関わりを持って過ごせるようにしている。		

事業者名: グループホーム陽だまりの丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も病院へお見舞いに行き励ましの言葉をかけたり相談にも応じてそれまでの関係性を大切にしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段、接する中で言葉だけではなく表情や態度から思いや意向を把握し、困難な方は家族から情報を得るようにしている。	日常のケアの中から利用者の思いや希望を把握している。	利用者の生活歴や入所後の様々な情報をわかりやすくまとめ、言葉で伝えにくい様々な思いや要望を理解するための工夫が求められる。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス開始に備えて関係者や家族に生活歴や生活スタイルに本人の希望意向を通してサービス利用の把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活のリズムに添って食事、排泄、心身状態等を職員で共有し現状把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全職員で利用者や家族の思いや要望を共有し介護計画に反映させるようにしている。また、3ヶ月に一回見直しを行い、状態の変化に即した介護計画を職員全員で作成するようにしている。	介護計画書は3カ月に1回、状態変化があればその都度、利用者全家族の要望をふまえ、職員で話し合い、見直している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	様子やバイタル等で状態の変化はないか、職員全員で情報の共有を図っている。また、評価を行い現状に即した介護計画となるよう全職員で努めている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の急な要望等は、職員全員で、その都度対応し希望に添えるように取り組んでいる。		

事業者名: グループホーム陽だまりの丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育園や児童館の子供達、地区のボランティアの方が来訪し歌や踊り体操等で楽しませてくれる事があり、その都度感謝の気持ち伝えたり、知っている歌をうたったりされる。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族の希望する主治医を決め受診や訪問等で連携を図り支援している。	主治医や利用者や家族の希望で決めており、受診はホーム職員で対応し、受診後に家族へ電話で報告をしている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置し毎日の健康管理や状態変化の兆しや経過観察等職員で共有し適切な受診や対応ができるよう努めている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の病院を訪問し、情報収集や経過観察等で退院に向けての調整関係作りに努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ほとんどの方が医療機関へ希望されるが、その都度本人や家族が不安なく過ごせるように話し合いで対応するよう努めている。	利用者・家族の希望に沿って医療機関と連携を取りつつ、終末期の対応を行うようにしている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署との連携を図り定期的に避難訓練を実施し救命講習等の実践訓練を行ったり急変時はマニュアル確認で対応に努めている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施し火災通報訓練や避難経路の確認を行っている。	年4回夜間想定も含めて訓練を行っている。内2回は消防署と合同で実施している。	現在は訓練などに地域住民の参加は行われていないため、今後は地域の協力体制の構築を期待したい。またと水や食料などの備蓄が求められる。

事業者名: グループホーム陽だまりの丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ミーティングや研修でその都度個人の誇りやプライバシーの保護について毎日の暮らしの中で損ねたり侵害する事のないよう対応に努めている。	申し送りや職員研修を通じて、個人情報やプライバシーの保護についての対応を話している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的に寄り添い接しながら本人の希望や要望を組みつつ把握し、その思いを自己決定できるように支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは基本的に設定されているが一人一人のペースに合わせて食事時間等をずらしたり利用者の状態や希望に添って柔軟に対応している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	なじみの美容室へ行ってカットを希望する方はその都度、本人の希望に添って外出している。日常的に、その人らしくおしゃれができるよう支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	包丁を持って材料を刻んだり器に盛って並べたりできる方はいませんが、豆の皮むきやふきの筋とり等部分的にできる所は協力して頂いている。	基本的に3食ホーム内で調理しており、野菜の下ごしらえなど利用者と一緒にやっている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分量を毎日チェックし記録を行い本人の好みの物にも配慮し職員間で情報の共有に努める。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後状態に応じて誤嚥性肺炎の予防を兼ねて口腔ケアを実施支援している。		

事業者名: グループホーム陽だまりの丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間オムツの利用者も日中はできるだけリハパンでトイレでの排泄を促している。失敗してもプライバシーを配慮し職員間でさり気なく、リハパン、ズボンの更衣支援している。	排泄チェックシートなどで利用者の排泄パターンを把握し、可能な限りオムツに頼らない支援を行っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を促す為、食事は繊維質の多い野菜の摂取をメニューに取り混ぜるようにしている。また水分補給を重視して、下剤の必要な方は合わせて使用している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個別に入浴計画を立てているが本人の希望やタイミングに合わせ自由に入浴できるよう個別支援に努めている。	入浴は週2回を基本として支援している。	入浴の回数や時間帯など、工夫しながら、利用者の生活歴や希望に沿った支援が行われることが求められる。
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動面を促し個々の状態により生活リズムを整えている。お昼寝の習慣等があればリビングのソファで休憩できるよう支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋はファイルし職員は薬の内容の把握に努め、また服薬の変更中止等情報を共有している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	病気がちでADLの低下や認知症が進行しつつある利用者にとって本来の力を活かす場が少なくなっている。洗濯物たたみや食材の皮むき等の役割を支援したり外出支援等気分転換の支援に努めている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調に合わせ本人の希望で散歩や外気浴を行っている。地域のイベントや四季折々の花や風景等を楽しめるよう外出支援に努めている。	日常的に散歩などで外へ出かけるようにしており、月1回はドライブで地域の行事や花見などに行っている。	

事業者名: グループホーム陽だまりの丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>ホームでの管理を希望される方を除き基本的には家族が管理している。本人の希望に添って買い物等必要な支払いをしている。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>家族や遠方の知人に電話をかけたり手紙を出すことは自由でありいつでもできるよう支援している。</p>		
52	(19)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>リビングは中央に吹き抜けがあり天気の良い日は太陽の光が入り明るく開放感のある室内である。周囲を眺めれば畑や木立など季節感が感じられ居心地よく過ごせるよう努めている。</p>	<p>和室がある食堂リビングは自然光が明るく差し込み、窓からは四季折々の自然の風景や、広々とした畑が臨める。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ソファや畳の間に座ったり横になったり、気の合う方とお互いに話ができくつろげるように配慮し支援している。</p>		
54	(20)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>昔なじみの物やタンス仏壇等置いて思い思い居心地よく過ごせるよう家庭的雰囲気作りに努めている。</p>	<p>使え慣れた家具などを持ち込み、すっきりとした居室となっている。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>ホーム内部は安全な環境面の配慮とスムーズな動作を促す為手摺りやスロープをつけて安全確保に努めている。</p>		